

第2章 サイン整備の考え方

2-1. 基本的な考え方

本市のサイン整備にあたっては、総合計画の将来像である「人が輝き まちがきらめく 快適・環境都市 鳥取」を踏まえ、鳥取市を訪れた人の満足感を高めるまちづくりを目指すため、来訪者へのおもてなしの心を重視し、だれもが安心して快適に滞在・回遊できるサインシステムの実現を図ります。

あわせて、市内各地域の豊かで貴重な資源を活かし、地域の特性や景観に配慮した施設整備や情報の提供を目指します。

「鳥取市公共サインガイドライン」では、目指すべきサインシステムの整備に向けて、次の3つの基本的な考え方にもとづいた基準や指標、配慮事項等を示します。

ユニバーサルデザインの視点による分かりやすい案内情報の提供

移動のために必要な情報をシンプルに表示し、表示の見やすさを確保します。

サインに表示される情報は常に正確であることに配慮するとともに、だれもが正しく理解できるよう、分かりやすい手法で表示します。

高齢者や障がい者、外国人など、言語や視覚によるコミュニケーションに制約がある人に対しても、必要な情報が認識できるように配慮します。

思いやり・おもてなしの心でまちを案内するための整備

地域特性をふまえた移動ルートと、ルート上の案内拠点を設定することにより、その拠点で必要な種類のサインを効果的に配置します。

移動途中の不安や迷いをなくすため、案内誘導情報を連続したシステムで提供することとします。

サイン施設は、だれも見つけやすく、かつ歩行者等の移動の支障とならない位置に設置します。

地域特性を考慮した、快適なまちづくりへの貢献

サイン施設の整備にあたっては、景観や周辺環境に配慮した設置位置や形状を検討するとともに、むやみに施設を増やさないう、来訪者の視点で案内が必要な場所を検討します。

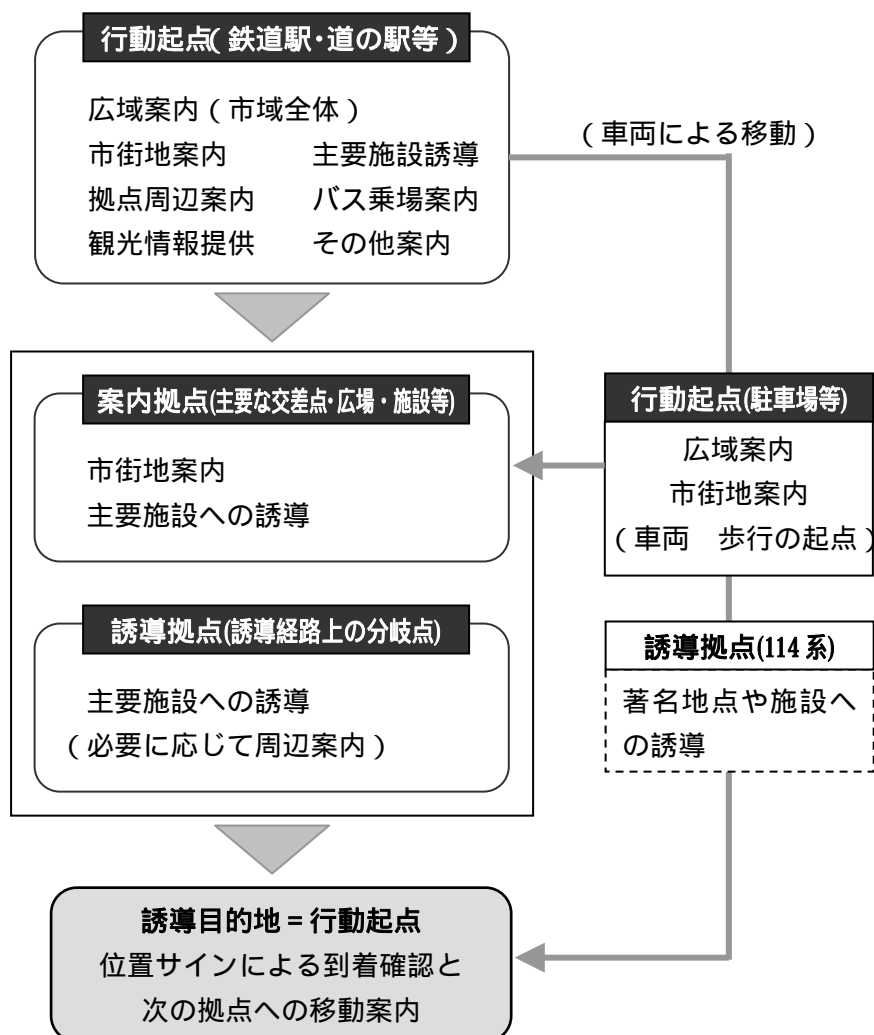
景観まちづくりを進めようとする地域や、既に独自の景観が形成されている地域では、それぞれの景観づくりの方針やルールに則ったサイン施設のデザインを検討することとします。ただしその場合も、ユニバーサルデザインの視点での見やすさや利用しやすさについては、ガイドラインの基準を遵守します。

2-2. サインシステム

(1) サインシステムの考え方

案内・誘導のためのサインは、来訪者の行動起点から目的地までの移動ルート上に連続して設置されることで、その機能が有効に発揮できます。行動起点から目的地までの間で、安心して移動できるための必要な誘導情報を配置するしくみをサインシステムとします。

本ガイドラインでは、歩行者系サインシステムについて、行動基点から目的地までの情報提供の考え方と、車両系サイン(114系著名地点案内標識)について、必要に応じた歩行者系サインとの連携についての考え方を示します。



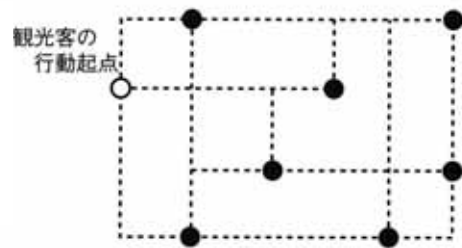
施設分布や道路整備状況、来訪者の目的によって、来訪者が目的地まで移動するパターンは変化します。来訪目的が観光である場合、目的地が多数あり分散している場合は回遊型傾向が強く、集中して少ない場合は直進型傾向で移動します。

前者は『観光活性化標識ガイドライン』（H17 国土交通省）に示された「自由アクセス型」もしくは「ルート設定型」、後者は「直接アクセス型」の考え方で施設配置を検討することになります。

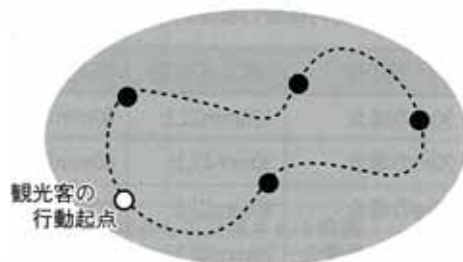
例として鳥取市中心部をみると、大半の来訪者はJR鳥取駅を行動起点として中心市街地を通過し、主要公共施設の集積ゾーンへ到達し、その後鳥取城跡周辺まで移動するパターンとなります。この場合、経路途中で沿道の主要公共施設を案内しながら誘導目的地である鳥取城跡周辺に誘導する「ルート設定型」での整備計画が考えられます。また、中心市街地で様々な施設を案内したい場合は、「自由アクセス型」で案内サインを適切に配置し、自由な回遊が可能となるような整備計画が考えられます。

図 観光客の誘導形態に応じた案内標識の配置（観光客の誘導形態の例）
（「観光活性化標識ガイドライン」国土交通省）

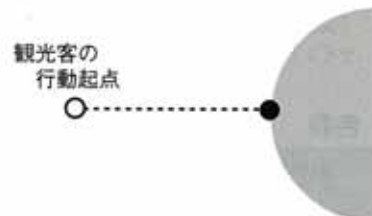
自由アクセス型
観光資源が複数点在しており、観光客が自由にアクセスを行えるよう誘導。
案内標識配置の考え方：
主要分岐点を中心に配置し、図解標識を活用して投網的に情報の提供を行う。



ルート設定型
観光客をあらかじめ設定された観光ルートに誘導。
案内標識配置の考え方：
観光ルートに沿って指示標識を配置し、主要な分岐点などで図解標識による補足を行う。



直接アクセス型
一定の面的エリア又は単一の施設に観光客を誘導。
案内標識配置の考え方：
観光客の行動起点における図解標識とルート上の指示標識により目的地へ誘導する。

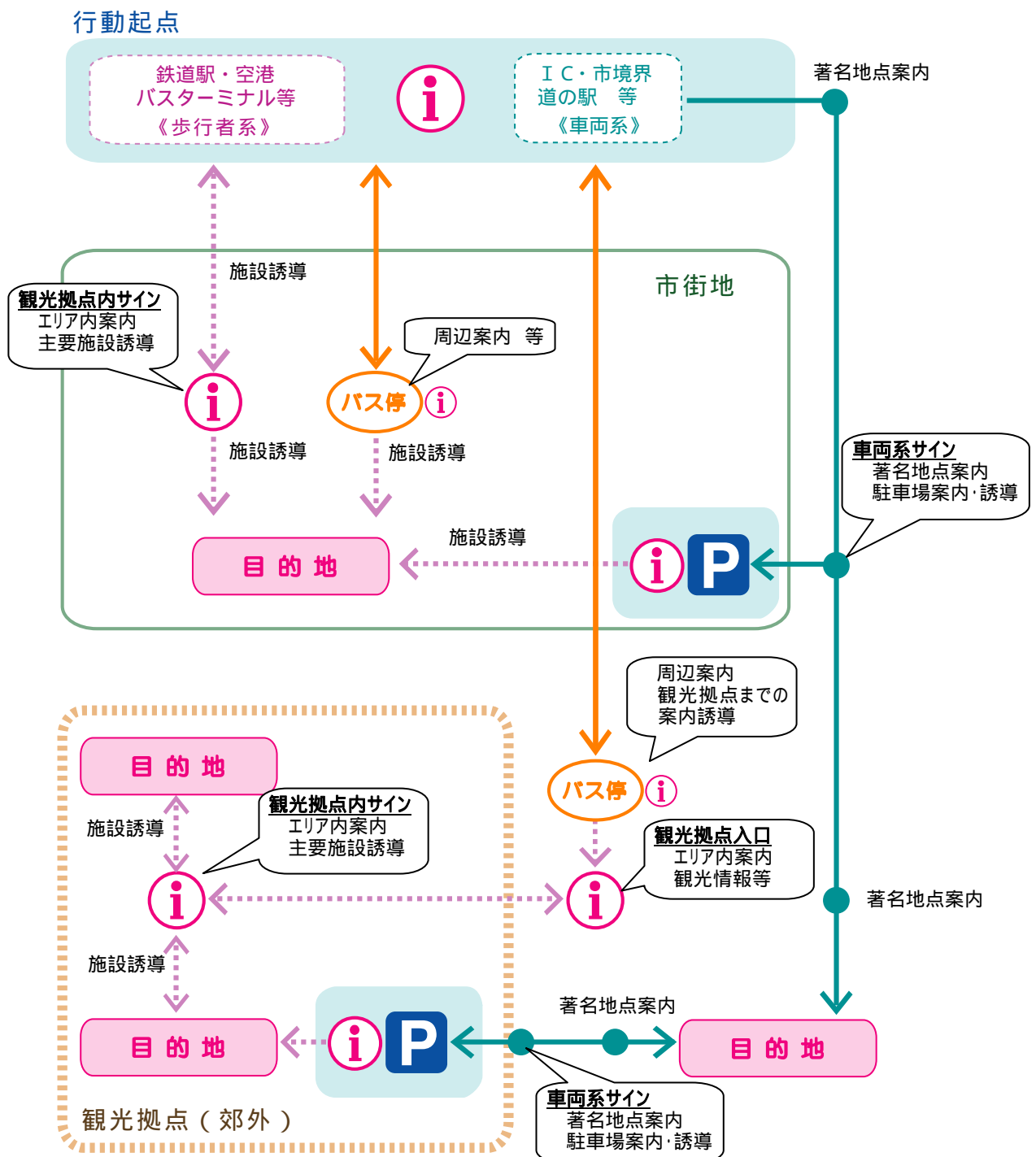


(2) サインシステムに基づく機能配置方針

サインシステムは、地域ごとの施設整備状況や地形特性等に応じて設定する必要があります。

市街地において回遊促進を図る場合は、面的に均等な密度で案内情報を提供する（自由アクセス型・投網配置）手法か、主要な誘導拠点までの移動経路を設定し、そのルート上で周辺案内情報を提供する（ルート設定型・線状配置）手法とします。

鹿野町など、一定のエリアを形成する拠点では、拠点周辺部（エントランス部）での案内を充実するとともに、車両系サインにより確実にエリア及びエリア内駐車場に誘導を図り、駐車場（もしくはバス停）で歩行者系サインとの連携を図ることが重要です。



(3) 施設配置の考え方

適切な案内・誘導を行うためには、来訪者の視点で「不安」や「迷い」を感じないように施設配置を検討する必要があります。ただし、サイン施設は必要だと思われる最小限の数を設置することが望ましく、具体的な案内拠点の配置においても、サインシステムの機能配置方針をふまえた最小限の配置とします。

誘導ルートの設定

拠点誘導ルートの設定：行動起点から著名地点等の誘導目的地まで

- ・行動起点となる駅やバスターミナルから目的地まで、原則として最短ルートを設定
- ・交通バリアフリー基本構想における特定経路及び準特定経路については、歩行者の安全な移動が確保できる区間として優先的に誘導ルートとして設定


その他の誘導ルートの設定（周遊促進、周辺ルートとの連携を図る場合）

- ・上の誘導ルートから連続して誘導できる歩道をその他の誘導ルートとして設定


案内・誘導拠点の設定

主要案内拠点（行動起点および著名地点等の誘導目的地） 

- ・歩行者系の行動起点は、地域特性に応じて設定
（JR各駅、空港、バスターミナル・バス停、主要な駐車場等）
- ・地区周辺及び広域の総合的な誘導案内情報を提供できる機能を整備
（案内サイン及び周辺の主要施設への誘導サイン、他拠点への移動に関する情報等）

案内拠点（誘導ルート上の主要交差点等に設定） 

- ・誘導ルートが分かれる地点、誘導ルートが交差点で曲がる地点では、案内サイン及び誘導サインを設置します

誘導拠点（誘導ルート上の分岐点等に設定） 

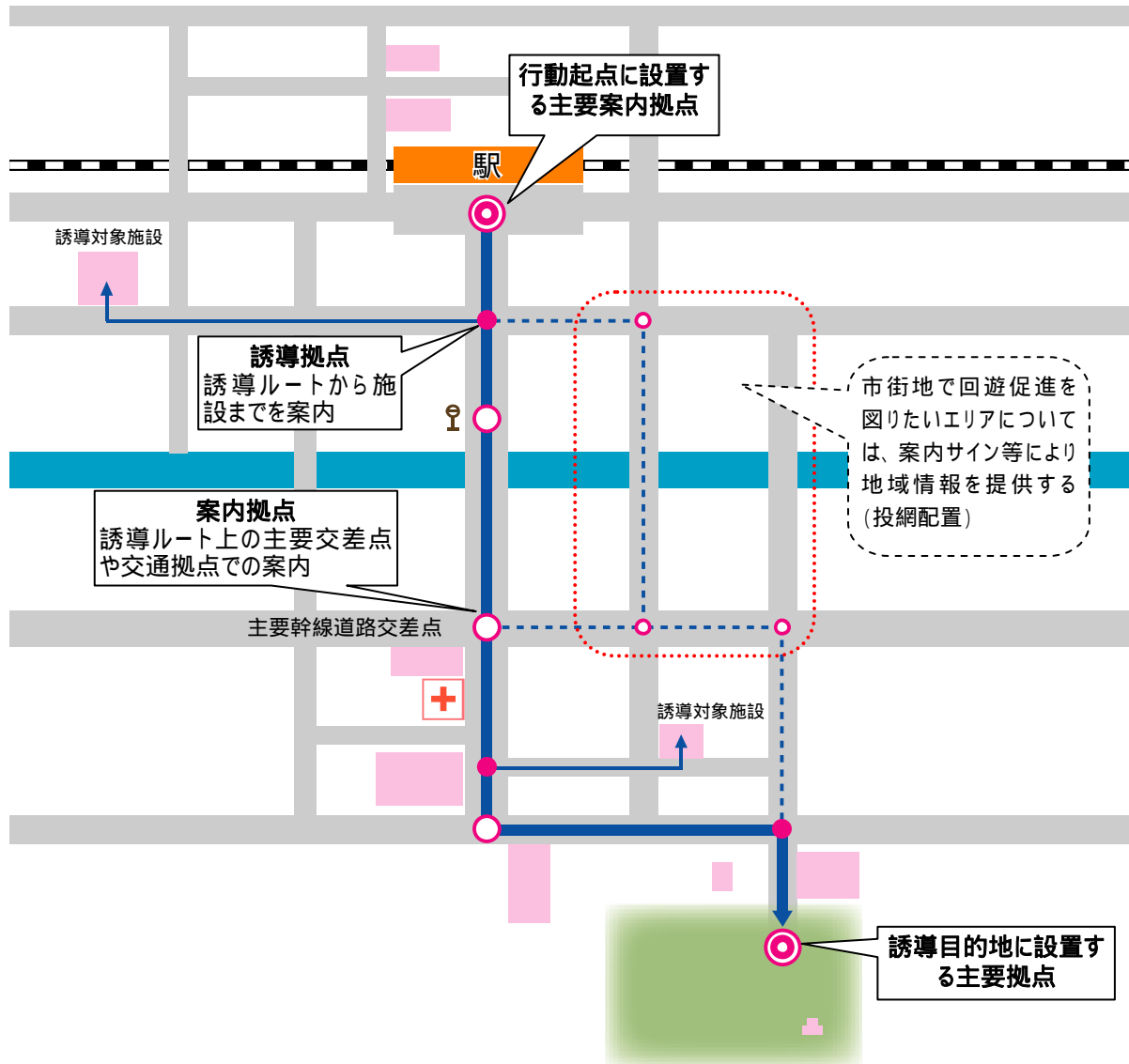
- ・誘導ルート上に分岐点がある場合、または直線のルートで一定以上の距離がある場合、誘導サインを設置します

段階的整備の考え方

誘導ルートおよび案内拠点を設定し、サイン施設を配置した地区において、新たに誘導対象となる拠点や施設が整備された場合、既存ルートおよび拠点から連続して案内するための手法を検討します。

その場合、新たに誘導ルートや案内拠点を設定しなくとも、既存の案内拠点からの誘導（誘導サイン表示の追加等）が可能かどうかを検討し、どうしても連続した案内ができない場合に限り、案内拠点を追加することとします。

サインシステムにもとづく施設配置イメージ



2-3. 公共サインの整備促進に向けて

(1) 適正な維持管理のために

整備及び維持管理の方針

公共サインが適正に活用されるためには、ハード・ソフトの両面から維持管理を継続して行う必要があります。以下に、維持管理のための基本方針を示します。

- ◆ 提供する情報内容は、最新に近い内容であることを目指します。
- ◆ 破損や大きな傷は、適切な対応を行います。
- ◆ 汚れなどの軽微なメンテナンスは、地域との協働も含めた対応を行います。
- ◆ 不要になったサインは適切に撤去・統合します。
- ◆ 維持管理を効率的に行うため、所有者・管理者を明確にします。
- ◆ 管理者は、定期的にサインの設置状態の把握に努めます。(情報入手、情報管理)

適正な維持管理のための体制

設置した公共サインの維持管理は原則として設置主体である各所管で行うものとします。ただし、サインの集約等にあたり庁内調整が必要な場合は、都市企画課が事務局となって適宜協議を行い、その結果を受けて必要な場合は各所管が各関係機関との調整を行います。

公共サイン管理台帳の作成

整備されたサインを適正に維持管理するため、サインを設置する担当部署は公共サイン管理台帳データを作成し、維持管理のデータベースとして保管・活用することとします。公共サイン管理台帳は、事務局である都市企画課に提出することとし、市内で設置された公共サインについては都市企画課で管理台帳を集約管理します。

(2) サインの設置について

ガイドライン基準を踏まえたサインの整備

「鳥取市公共サインガイドライン」は、公共サインの設置を行う全ての所管部署が所有するものとし、定められた基準や配慮事項を踏まえて設置を行います。鳥取県や公共交通機関、観光関連団体等がサインを設置する場合は、都市企画課が窓口となりガイドラインと整備計画の整合を図ります。

調整事項及び留意点

公共サインの設置にあたっては、各種法令の規制や交通標識等との安全管理確保上などで配慮すべき事項や留意する事項があるため、事前に関係機関等と調整した上で設置します。

市街地整備や拠点整備等、新たな市街地の整備にあたり、地区計画や協議会等により屋外工作物等へのデザイン・色彩コードが設定されている場合は、本ガイドラインの施設デザインではなく、各地区で定めた基準を優先します。ただし、ユニバーサルデザインの視点から定められた各種基準については、本ガイドラインを遵守することとします。

(3) サインの維持管理について

維持管理計画について

設置した全ての公共サインは、設置所管の責任の下に管理を実施します。

公共サインは作成者（計画者）と、設置主体及びメンテナンス実施者が異なる場合があります。適切にサインの維持管理を実行するにあたり、公共サインを設置する担当部署は、維持管理執行体制を策定し、都市企画課に提出します。維持管理執行体制は、管理の各段階におけるメンテナンス実施者と実施手法を明確にします。

なお、サイン施設には設置主体、管理番号、設置時期などを明示し、利用者や関連事業者等からの報告にも的確に対応できるようにします。

施設の維持管理について

サイン施設管理には、清掃など日常的なメンテナンスと、点検と修理を伴うメンテナンスを行います。

維持・修繕は、設置箇所の地域特性等に応じて、定期的を実施するよう計画します。点検は一定期間の経過を目処に行い、損傷の程度に併せて補修計画を策定して、補修します。

また、市民等からの情報提供によりサインの損傷情報がある場合には、関係部署は損傷の状況を判断した上で、緊急補修を実施します。

情報更新について

施設案内情報の追加、修正、削除など、サイン表示情報の適正な更新は維持管理を行う上で最も重要な課題です。公共サイン管理台帳データベースの活用や表示内容に関する情報収集を実施し、定期的に点検・見直しを行うとともに、サイン表示内容を速やかに更新します。

案内マップ表示面については、マップ表面の劣化状況と情報内容の変更量を踏まえ、更新手法を設定します。原則として、5～7年で案内マップの全面貼り替えを行うこととし、それ以内（短期）で対応すべき修正については、部分貼り込み形式で修正を行います。

(4) サインの撤去について

公共サイン自体が不要になった場合や、老朽化等により施設を全面更新する場合、あるいは管理者の要請により設置場所を移動する場合などは、速やかな施設の撤去に努めます。また、管理者不明の既存サインでガイドラインの基準から大きく外れる施設については、できるだけ早急な撤去を図ります。

道路管理者等の要請により撤去する場合において、誘導ルート上での拠点であったり誘導案内へのニーズが高かったりなど、公共サイン設置の必要性があるときには、再設置のための代替場所についても併せて協議します。

表（参考） 案内マップの主な印刷方法と特徴

印刷方法	特 徴	耐用年数	価格帯
高精細印刷	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な印刷方法(CMYKの4色分解)で高精細に表現可能 アルミ板やアルミポリエチ複合板を基板として印刷 退色を防ぐためUVカットフィルムをコーティング 	約7年	低・ <input type="checkbox"/> 中・高
インクジェット印刷	<ul style="list-style-type: none"> 4~6色のインクを様々な専用シートに直接印刷(精細) 印刷面の保護・退色防止のため高耐候性インクを使用 表面に特殊UVカットフィルムコートを塗布 	約2~3年	<input type="checkbox"/> 低・中・高
シルクスクリーン印刷	<ul style="list-style-type: none"> ベタ色の表現など発色が良く独特の美しさで印刷可能(精細) 使用する色ごとに版が必要となり製作コストに影響する 退色を防ぐためUVカットフィルムをコーティング 	約5年	低・ <input type="checkbox"/> 中・高

表（参考） サイン施設本体に用いられる主な材質と特徴

材 質	特 徴
木 材	<ul style="list-style-type: none"> 地場産の間伐材を有効活用できる オイルを浸透させ耐久性と寸法安定性を向上することが可能
再 生 木 材	<ul style="list-style-type: none"> 木粉(木の繊維質)とプラスチックを有機強化材で結合したりサイクル素材 見た目は天然木に近い風合いでありながら天然木を超える優れた耐朽性を発揮する
ス テ ン レ ス	<ul style="list-style-type: none"> 錆びない合金鋼であるため耐食性に優れる 表面研磨の違いで様々な質感の表現が可能であり装飾性に優れる
アルミニウム	<ul style="list-style-type: none"> 軽量でありながら耐食性に優れ、やわらかく加工しやすいため複雑な形状にも対応可能 クリア塗装や合成樹脂焼付塗装等の表面仕上げが可能
擬 石	<ul style="list-style-type: none"> 焼却灰や下水汚泥を高温焼成し、コンクリート材料として再資源化した材質